

idea

ニュースレター「アイデア」

2019.12

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | 一関市協働推進会議 会長 三浦幹夫さん
- 3 | 団体紹介 | 川崎町婦人消防協力隊
- 5 | 地域紹介 | 第27区自治会（藤沢）
- 7 | 企業紹介 | マルキの家（花泉）
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 円卓会議の意義
- 9 | センターの自由研究 | 仕事の流儀「養蚕」後編

今月の表紙

この色鮮やかなお花は繭で作られたクラフト作品（繭細工）です。写真は繭を染めたもので作られていますが、蚕の品種によっては黄色や黄緑色の繭もあることはご存知でしょうか？今月の「自由研究」は、蚕の新たな可能性についてご紹介いたします。

idea

発行 いちのせき市民活動センター 〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415
せんまやサテライト 〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736

ホームページ: <https://www.center-i.org/> メール: center-i@tempo.co.jp

お知らせ

講座

自治会長サミット vol. 10

自治会運営に携わるご本人から皆さんへ、生の声で“自治会運営のコツ”をご紹介します。今回は高齢化と向き合いながら一人ひとりが地域の主役となって協力し合う大東町大原・川内自治会さん、地域の創意工夫が詰まった世代間交流等の取り組みが盛んな千厩町小梨・第九区自治会さんが事例発表します。

日時: 2020年1月18日(土)
13時30分～16時30分
場所: 川崎市民センター
対象: 市内自治会長または準ずる役員の方
参加料: 無料
主催: いちのせき市民活動センター
問合せ & 申込: 0191-26-6400

イベント

いちのせき100万人の キャンドルナイト in あいぽーと

手作りのエコキャンドルの灯りの中、みんなで幻想的な夜を過ごしましょう。絵本のよみかせ、ハンドマッサージ、よもぎ湯(手浴)などの体験コーナーのほかホットドリンクコーナー「B.R.G cafe」もご用意しています。カフェの前売りチケット(100円/いちのせき市民活動センターにて販売)とマイカップを持参した先着30名様にはプレゼントあり♪

日時: 2019年12月7日(土)17時～
場所: 北上川学習交流館あいぽーと
(一関市孤禅寺字石ノ瀬155-1)
入場料: 無料
主催: 一関世代にかける橋
問合せ: 0191-26-0077(あいぽーと事務局)

イベント

いちのせきこどもふえすた

「おさがりひろば」「郷土料理コーナー」「よみかせコーナー」「ものづくりコーナー」「バルーンコーナー」「サイバーホイール」等、親子で楽しめるコーナーを多数ご用意しています。午後からは「おどなわらす」によるコンサートや豪華賞品が当たる抽選会も開催！ぜひご家族でお越しください。

日時: 2019年12月7日(土)
10時～15時
場所: なのはなプラザ2階
入場料: 無料
主催: いちのせきこどもふえすた
2019実行委員会
問合せ: 0191-26-6401(おやこ広場)

イベント

岩手・一関 第13回 全国わんこもち大会

一関のもち文化をユニークに発信する、岩手名物“わんこそば”ならぬ“わんこもち”！2人1組、または個人でエントリーし、5分間で何個のもちを食べられるかを競います。年齢制限はありません。申込は2020年1月20日まで！挑戦をお待ちしています。

日時: 2020年2月2日(日)
競技10時～
場所: なのはなプラザ3階
参加料: 団体戦(2人1組)2,000円
男性・女性個人戦 各1,000円
主催: 全国わんこもち大会実行委員会
問合せ & 申込: 0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター内)

販売

花と泉の公園オリジナル 「門松」販売

新年の門出を華やかに飾る門松。花と泉の公園の門松は冬でも管理しやすいハボタン、ピオラ、シロタエギクなどを色鮮やかに寄せ植えしています。お正月が終わったら、竹飾りを外して冬の寄せ植えとしてもお楽しみいただけます。寿・松・竹・梅の4種類で、各々販売数が限られています。詳しくはお問い合わせください。

申込締切: 2019年12月15日(日)
販売先: 花と泉の公園
※配達、発送も承っております
料金: 1600円(梅)～18500円(寿)
問合せ: 0191-82-4066

譲ります

馬の堆肥さしあげます

馬の堆肥を家庭菜園等で使ってみませんか。おがくず堆肥なので、匂いも少なく、扱いも容易です。牧場まで取りに来てくださる方には無料でさしあげています。市内であれば軽トラック1台3,000円で運搬の対応も可能です。完熟堆肥ではありませんので必要に応じて熟成させてください。

場所: 佐々木牧場
(一関市中里字大平山23-76)
※「山桜桃の湯」さん近く
問合せ: 0191-48-4461/
080-1841-1800(佐々木)

まちの写真展

スタッフがまちの1コマを切り取ります。

作品名 「新たなデートスポット!？」



涌津まちづくり協議会(花泉)が地域内の紫館公園(紫館城跡)に9月に設置した地域住民手造りのベンチとテーブル。4月に同公園で開催した「桜まつり」で集まった同公園環境整備募金を活用しての設置です。老若男女の憩いの場として活躍していくこととしよう。



旧町村別の人口動態等を共有します。

2019年11月1日付
(10月31日現在
住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

一関市全体		前月比
人口	115717	-105
世帯数	46327	-5
出生数	50	+5

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	56576	-10	24273	+14
花泉	12813	-25	4706	-7
川崎	3553	-4	1287	-2
千厩	10600	-10	4116	+2
大東	13166	-35	5009	-7
東山	6429	-8	2312	-1
室根	4850	-16	1798	-6
藤沢	7730	+3	2826	+2

/ 38 / 115,717

三浦 幹夫

平成20年より一関市が取り組み始めた「協働のまちづくり」において、その具体的な取り組みを検討する「協働推進アクションプラン」検討委員会の準備委員会から住民代表として委員長を務め、平成24年から設置された「一関市協働推進会議」においても現在まで会長を務める。室根12区自治会会長、室根まちづくり協議会会長としても活躍中。



第66回

一関市協働推進会議 会長 三浦幹夫さん × いちのせき市民活動センター 主任支援員 佐々木牧恵

理想のふるさとを求めて ～話し合いの仕組みと機動力をもった地域に～

「森は海の恋人植樹祭」で全国的に名が知られる室根12区自治会。その自治会長を15年以上務め、単位自治会レベルの地域づくり活動に尽力する傍ら、新一関市としての「まちづくり」においても、「一関市としての協働」を定義する段階から関わり続けてきた三浦さん。初動時期から現在までを知る貴重な立場から、協働のまちづくりが進むべき「これから」を語っていただきました。

佐々木 協働推進アクションプラン検討委員会の準備段階から関わっていたと聞きましたが、どのような経緯で関わるようになったのでしょうか。

三浦 当時、12区自治会では「地域づくり委員会」を組織し自治会活動の見直しを始めていたんです。その一環で高崎経済大学の櫻井先生に講演をいただきましたが、その後、櫻井先生が市の協働のまちづくりにおけるアドバイザーに就任しまして、各地域から住民代表を推薦する過程で何かしら白羽の矢が立ったのではないのでしょうか（笑）

佐々木 その当時すでに「協働」という言葉は知っていたのでしょうか。

三浦 この漢字での協働は知らず、なるほどなど。ただ、はたと思ったのは、自分たちが今までそれぞれの考えで地域のためにやってきていたことが協働の一番の原点だろうなど。当時、

とは何でしょうか。

三浦 いつも私が言うのは「室根全体が良くなるかどうかは、それぞれの自治会長の動きそのものだよ」ということ。一番の基礎母体は自治会であって、自治会活動が一生懸命であれば地域の人は満足する。ただ、今の自治会活動は単なる親睦活動に留まっていて、少子高齢化問題、地域の在り方など、本当に自ら変えていくという自治会長はなかなかいない。今は市役所がどうこうじゃなく、住んでいる人たちがどういう風に考えてどう動いていくか。それをまとめるのが自治会長であり、さらにそれをまとめ、サポートするのが協働体だと思っています。

佐々木 三浦さんがアクションプラン検討委員時代に「協働」からの「金の駒」を期待するとしたコメントを某誌面で拝見しました※。ずばり、金の駒は生まれ始めましたか。

三浦 まだ金まではいかなかったな、銅だな（笑）話し合いをする仕組みが普通になってきたのは良いことだけだね。

薄衣や松川の大水害がありましたが、その時の姿はまさに協働であり、見本としてそこにあった。12区自治会はそうした災害はないですが「行政などを頼りにしないでやっていこう」という地域づくりの方針を持っていたので、スツと入ってきました。

佐々木 他のメンバーの方たちはどうだったのでしょうか？ 半分か行政職員で半分が住民だと聞きましたか。

三浦 それはもう、訳の分からない状態ですよ。怒号が飛び交った時もありました。なので委員長になるにあたり「役所を攻撃しても意味がないので、市民としてまちをどうやってつくっていくか、その1点に絞って議論しましょう」ということを委員のみなさんをお願いしました。

佐々木 協働のまちづくりは市としての施策。地域住民の思いとの温度差はありましたか。

佐々木 どういう金の駒を期待していますか。

三浦 主体的に各自治会が活発に動いてくることかな。なんぼ市長が立派な人だつて、官に任せてたら何にもならない。自治会、そして自治会長ほど自分の理想とするふるさとを作る土台はないよ。

佐々木 最終的には「自治会」と三浦さんに言ってもらえるのは心強いですね。

三浦 やればやるほど、金の駒に近づいていっているという期待感を持っている。生きている中でも夢や希望がないと面白くない。地域に関しても同じで、残念ながら亡くなる人やケガをする人もいる中で、相対的に向上していれば良いんです。

佐々木 そう考えると金の駒は出て来そう出てこないくらいが良いのかもしれないね（笑）

三浦 金の次はプラチナか（笑）地域や企業の担い手不足も協働体が担っていければ良いですね。

三浦 まるつきり格差がありましたね。でも、協働のまちづくりがまっさらな状態だったからかえって良かったのかもしれない。今まで私どもは行政主導が当たり前だったのだから、「自分たちの思いでやっていう」なんて発想がなかった。なので行政と対等に話し合うというのは私にとっても画期的で、最初は「行政に対してこんなこと言っているの？」とみんな不安でしたよ。

佐々木 今ですら「事務局案なの？」と言われてしまいがちなのに、ゼロから、しかも「考え方」を築き上げていくというのは、行政としても相当な覚悟がいりますよね。他の市町村と比べてもかなり珍しいように思います。

三浦 その頃は19時から22時まで週に1回ペースで検討していたものですから、奥さんからも「あんた毎晩何してんのよ」と言われたり（笑）冬の寒い中帰る時は「俺一体何やってるんだろ」と打ちひしがれた時もありましたよ。みんな不安だったと思う。でも、だからこそ自分の自治会に「今こんなことして

るよ」と中間報告しながら、そこに対しての声を吸い上げ、キャッチボールをしながらやってきた。いかに地域住民と会話をし続けるか、それが協働の中では大事なことだと思うし、それを身をもって体感したわけですよ。どうでしょう？

佐々木 三浦さんたちのおかげで協働の土台ができ、アクションプランそのものは進んでいるように見えますが、実際のところどうでしょう？

三浦 まだまだですね。協働という柱でまちづくりを進めると決めたのが第1段階、第2段階として協働体が設立され、第3段階としては「地域協働体がどうあるべきか」ということを自らの力で考えたり、発信したり、行動したり、そういうことが必要だと思う。そして「ヒト・カネ・モノ」を地域としてどう生み出していくか。いつまでも交付金頼みではなく、あと10年後には本当の意味で自立した地域協働体でありたいなと。

佐々木 自治会長と協働体会長と2つの立場がある三浦さんだからこそ考えるそれぞれの役割

団体紹介

川崎町婦人消防協力隊

昭和45年発足。地域内の各自治会(26自治会)から3人ずつ隊員として選出します。地域の消防団、自主防災組織などの関係団体と連携し、安全・安心な火災のないまちづくりを目指しています。

(事務局)

〒029-0202 一関市川崎町薄衣字町裏65-5

TEL 0191-43-0119(一関東消防署川崎分署内)

写真：視察研修の様子(宮城県名取市関上地区「関上の記憶」前にて)



地域に広げる「防火の輪」

日々の活動が実を結ぶ

来年で設立50周年を迎えるという川崎町婦人消防協力隊(以下「婦協」)。日々、川崎町内の防災活動に尽力し、今年9月1日(防災の日)、長年にわたり火災予防意識の高揚及び啓発に多大な貢献をされた功績を讃えられ、令和元年度岩手県幼年婦人防火委員会から優良婦人消防協力隊として会長表彰を受賞しました。

「私達はそんなに特別なことはしていない。日頃の活動に隊員たちが一生懸命に取り組み、関係機関・団体が協力してくれたおかげで受賞できた」と謙遜しながら話すのは隊長の小野寺さち子さん。そして、「隊長は隊と地域のことを優先的に考え、率先して行動してくれる。だから婦協の隊員だけではなく、消防職員、消防団、住民からも信頼され、川崎の元氣印にもなっている」と話すのは副隊長の石川文子さん、千葉恵美子さんです。今回はそんな3人に婦協

川崎町婦人消防協力隊

女性は縁の下の力持ち

の活動についてお話を伺ってきました。

「川崎は昔から防災意識が強い地域」と話すのは副隊長の千葉さん。現在、川崎には北上川、砂鉄川ともに立派な堤防が造られていますが、昔は堤防がなかったために水害が頻繁に発生し、多くの人々が大変な思いをしました。そのような経験から、川崎に住む人たちの防災意識は堤防ができた今も高く、関係機関・団体だけではなく、住民との協力体制もしっかり構築され、婦協の活動にも大きく関わっています。

婦協の主な活動は、火災予防への意識を高めるための啓発活動と、春と秋の年2回一人暮らし高齢者世帯を訪問(1地区あたりの訪問件数は平均4〜5件)する防火査察。査察内容は、住宅用火災警報器が正常に作動するか、消火器の設置状態、火気使用器具などの確

- Photo

gallery -

隊長の手作りバック

婦協同士の集まりでも「川崎」の文字を目印に隊員を見つけることが可能。A4サイズの書類がスッポリ入ります。



命を助ける大事な手段

令和元年度一関市消防団川崎地域消防演習で行った応急手当と心肺蘇生法。すべては大切な命を守るため！



緊急時だからこそ

応急炊き出し訓練の様子。食材があるとは限らない緊急時、最も身近にあるお米でおにぎりを作り、避難した人へ届けます。



定期的な視察研修

宮城県仙台市消防局若林消防署六郷分署へ視察研修に行き、他地域の防災の取り組みを勉強。真剣さが伝わる後ろ姿です。



「川崎」の文字を

お守りに

消防団や婦協のシンボルともなっている「法被」は昔、火消しの人たちが着用し、その上から水をかぶり、火が燃え移るのを防ぎながら消火にあたっていたと言われています。

一関市では合併をきっかけに、平成25年から全域の消防団や婦協の法被を統一していますが、合併前は各地域オリジナルの法被がありました。「昭和45年から使われてきた婦協の法被には様々な思いが詰め込まれている。

これを失くすのはもったいない」とその法被に目を付けたのは隊長の小野寺さん。「川崎」の文字が印字された法被を使い、隊長自らが約3か月をかけて全隊員の手提げバックを作製。このバックは、婦協の活動のときには持つて歩くようにし、隊員を交代するときにはバックがバトンの役割を果たします。副隊長2人は、「隊長が作ってくれたバックは川崎の婦協にしかないもので、他の地域からも羨ましいという声を聞く。これは隊員全員のお守りにもなっている」と話します。

「昔の人たちがつないできてくれたバトンは後世へしっかりと受け継ぎ、こ

「婦協」の「合言葉」は？

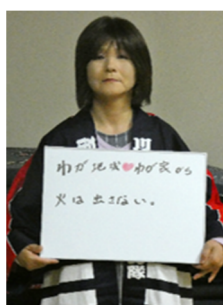
隊長



おのでら さちこ
小野寺さち子さん

隊長歴：11年目
本職は看護師！さち子さんが作るきゅうりの「からし漬け」は、消防職員や婦協の隊員からも好評。川崎の“お母さん”的存在。

副隊長



いしかわふみこ
石川文子さん

副隊長歴：5年目
隊長を支える副隊長の1人。文子さんも仕事をしながら婦協の活動に尽力。隊長とともにこれからも川崎の安全を見守っていきます。

地域紹介

第27区自治会

昭和49年設立。千厩と室根の境に位置する34世帯103人が暮らす農村地域。総務部、生活環境部、交通防犯部、産業部、福祉保健部、納税部、女性部、青年部で組織されています。

左の写真：農家組合との合同研修の様子



継続の秘訣はつながりと主体性

若者中心から 多世代交流へ

黄金山の麓に位置し、山から流れる小川には「ホタルの里（農地・水徳田活動組織が管理）」もある自然豊かな第27区自治会（藤沢）。今回は、長年自治会活動を支えてきた自治会長の星義弘さんと総務部長の星浩徳さんにお話を伺いました。

決して大きな地域ではない27区ですが、若者が中心となり地域の交流を深めています。義弘さんは一度県外で働いたのち地元に戻って来ると、若者が活動するための組織として青年部を設置。当初は、子どもの健全育成を目的とした活動がメインでしたが、27区を皮切りに当時小学校区だった徳田地区内の5つの自治会に青年部ができ、自治会活動の他にも学校単位で地域の活動に協力したそうです。

27区では現在、30代を中心とした5人のメンバーがOBのサポートをもらいながら青年部で活動しており、メンバーの確保は部内の

第27区自治会

藤沢

若者が次の世代に声をかけることで活動が続いています。

青年部発案で始まったピアガーデンは30年以上続いており、27区のみんなが集う機会になっています。当初は若者を中心とした行事でしたが、少子高齢化の影響もあり、近年では会費制で自治会の誰でも参加できるようにした結果、みんなが楽しめるようにと企画したビンゴゲームを楽しみにお年寄りの方も多数参加。毎年ほぼ全戸が集まり、交流できる良い機会に発展したそうです。

また、新年会の際には子どもたちが大人にそば打ちを教わりながらみんなで食べ、合わせて防災講座と交通防犯教室を行うなど多世代が集える機会をつくっています。

みんなが主役の 「若返り隊」

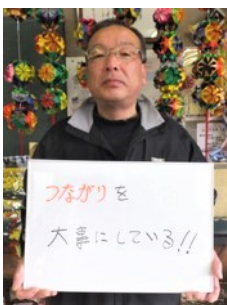
27区では、平成28年度に藤沢町内では初めて「週イチ倶楽部※」である「若返り隊」を立ち上げました。毎週月曜日に自治会館に集

た経緯があるので、地区単位でまとまるベースはできている。地区内自治会・団体と連携しながら活動を続けていきたい」と抱負を語ってくださいました。

星浩徳さん

青年部長、文教部長を経て今年から総務部長に。義弘さんとともに長年自治会の中心メンバーとして活動に従事しています

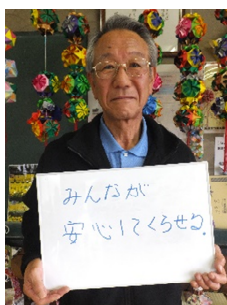
総務部長



星義弘さん

自治会長は1期1年目ですが、若い頃に帰ってきてすぐに庶務に就任し、青年部を組織するなど自治会を支えてきたベテラン。

自治会長



Q.集落の自慢は何ですか？

有休農地で花壇

自治会館の側にある遊休農地を活用した花壇では、花いっぱいコンクールの花のほか、ひまわりや菜の花も育てています。



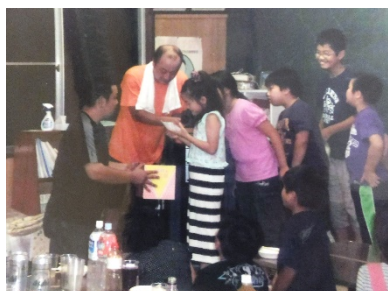
若返り隊

100歳体操の後は、間違い探しで脳トレをしたり、各自で作ったおやつや漬物を食べながら、次回企画を話し合います。



ビンゴゲーム

ピアガーデンで老若男女問わず一番盛り上がるビンゴゲーム。青年部が1人1個景品が行きわたるよう景品を準備します。



新年会でのそば打ち

中山間地域等直接支払交付金を活用して育てたそばを使って、新年会で食べるそばを自分たちで打ちます。



gallery -

- Photo

平成10年4月に開所した「マルキの家」は、地域のお母さん方の声から生まれた託児所(児童福祉法第59条の2届出施設マルキの家ニコニコ託児室)と学童クラブ(一関市委託放課後児童健全育成事業所マルキの家学童クラブ)の運営を行う施設です。平成27年からは一関市の認可を受け、小規模保育園「丸喜の家にこにこ保育園」の運営も開始し、0歳児から小学児童までを対象とした施設になりました。施設管理者で同園の園長を務める千葉真美子さんは、これまで仕事として保育現場に携わる経験はなかったものの、各事業機能の必要性和向き合い、地域で安心して子育てができる環境づくりに努めています。

「こんな場所があったらいいね」の声を形に

「嫁ぎ先の花泉町でさまざまな人と出会い、ともに育児を語り楽しんで仲間感謝」と語るのは「マルキの家」を運営し「小規模保育園 丸喜の家にこにこ保育園」の園長でもある千葉真美子さんです。託児所と学童クラブの運営が軌道に乗り、自身の子育ても落ち着いたらと同時に、保育士を目指すため短期大学へ入学。保育士の資格を取得しました。

千葉さんは夫の転勤で子育てを仙台市でスタートさせ、平成9年に夫の地元花泉町へ。自身の地元ではないため、幼子2人を抱えて新たな地での子育てに不安を抱えていたところ、子育てサークル「どんぐりの会(現在活動休止中)」と出会います。「当時は30数名の親子が参加し、月ごとの行事をみんなで作る、年末には記念誌を作成するほど活動が盛んだった」と振り返り、「週一回の活動では物足りなく、毎日時間が空いたときに自由に遊べる場所、急でも託児をしてもらえる場所があったらいいのにね」などよく語り合っていたのだとか。ちょうどその頃町内に子育て支援センターが併設された新たなこども園が建設されて

ないなら自分たちで
立ち上げよう

いたものの、千葉さんたちのニーズとは少し違うものであったことから、「この地域で子育てをするうえで、どんな機能を持った場所が必要か」を改めて話し合い、「ないなら自分たちで作ろう」と、平成10年、どんぐりの会の有志メンバーで託児所※と学童クラブを立ち上げたのです。

※国が定めた児童福祉施設最低基準に沿った保育所には該当しない、認可外保育所。保育施設を開設・運営するには一定数以上の保育士の資格保持者が必要。

小さな声に耳を傾け、 地域課題と向き合う

「マルキの家」という施設内で3つの事業を展開する同園ですが、平成27年に認可の小規模保育園を開所する際、これまでの「託児所」を存続するか悩んだと言います。「保育園は所得によって利用料が定められているため、託児所よりも保育料が安く済みます。半面、入園までに時間がかかり、様々な手続きも必要です。託児所は園長との契約なので手



- 1 園長の千葉真美子さん。今年5月には、AED講習を受け、AED設置事業所として認定されました。街のまほ中心と利便性の高い場所に広い園庭と施設があります。
- 2 保育園の朝の一コマ。学童を利用する児童とも交流しています。

DATA

〒029-3105
一関市花泉町涌津字上原10-2
TEL & FAX 0191-82-2469

円卓会議の 意義



第9話

「補完」は、「話し合い」から

一関市の協働の定義は「話し合いと合意形成」です。この定義の背景については、第6話でお伝えしていますが、この定義は「行政と市民の間で目指すべき協働の姿」と誤解されがちです。決して行政との協働に限った話ではなく、「**地域を支える主体それぞれが協働する**」ために「話し合い」は必要です。

地域にはたくさんの「役割(役職)」があり、それによって地域を支えています。が、「ご近所付き合いのコミュニケーション」はとっていながらも、「役割としてのコミュニケーション」は少なく、情報の共有がされていない状況がしばしば見受けられます。それぞれの役割で抱えている課題や事業が、それぞれの世界で止まっていて、どこかで一緒に議論しない限り、永遠に交わることのない状況になってしまいます。

それぞれの「役割」の元を辿ると、行政や各種団体につながっていきませんが、「縦割り社会」の構図が地域コミュニティにも起きているのが現状です。一緒に話し合い、課題の共有をすることによって「共通課題」や「個別課題」に気づき、気づきの中から「連携」や「見直し」に発展することもあるはず。このことを「補完」といい、補完するためには**地域内に「円卓会議」のような話し合いの場**が必要です。市民センター単位で地域協働体を設立した目的はそこにあるのです。

しかし、地域協働体の設立から時間が経過すると共に、**地域協働体の姿は「事業主体」になりつつあるのが現実**です。地域づくり計画を策定したことで、「計画の実行」が求められるために「事業」に至る訳ですが、闇雲に事業を立案・実行するよりも、じっくりと**円卓会議で地域のことを話し合い、地域の将来像に向かってみんなで取り組んでいかないと、「一部の人の集まりの出来事」**になってしまう、地域住民の参加意識は低くなってしまいます。

地域づくり活動に対し「前のめり」になりすぎてしまうと、気合が入り、やること(=事業)が多くなってしまいます。これからの地域づくり活動は、まずは「**後ろ向き**」になり、過去から現在までを振り返り、これまで築き上げてきた**地域活動の中から、「将来へつなぐバトン」を「整理」**することが必要です。まずは整理整頓。その上で必要な事業を考え、「**みんなで実行する**」という順番を意識したいところです。



関連記事：本誌1-2ページ
「二言三言」にあり！

「話し合い」は「金の駒」

一関市における「協働のまちづくり」は、行政だけで考えたものではありません。「**新市のまちづくりは市民と行政が一緒になって考えなければいけない**」というのが当時の協働推進課(現まちづくり推進課)にとつての大きなテーマ。市民にも参加してもらい、「共に創り上げていく」というプロセスを大事にしてきました。

当初から協働のまちづくりに関わり、現在「一関市協働推進会議」の会長を務める三浦幹夫さんと当時を振り返ってみました(2019年6月2日に開催された「森は海の恋人植樹祭」会場にて)。



三浦さん：協働の議論を始めた頃は、何が協働で、何をすることがベストなのかも手探り。常に不安しかなかったが、「**話し合いをする**」ということが「**協働**」に決まった時に、**少し肩の荷が下りたような**気がしました。地域の課題は、昔に比べて多くなるし、深刻化するため、これ以上、地域で何かをやるとするのは無理だと思っていた。でも「話し合い」なら何とかできる。ところが「**話し合い**」も**簡単なようで難しく、思うようにいかないもの**。室根まちづくり協議会でも、手探りの時間は長かったけど、**時間の経過とともに話し合いができるようになってきた**と感じています。**話し合いという「金の駒」**は生まれはじめてるんじゃないかな。

「金の駒」とは、協働の定義を議論していた平成22年に『ガバナンス※』という雑誌で地方自治ジャーナリストからの取材を受けた三浦さんが、実験的な試みとも言える「話し合いによる協働」という定義を「瓢箪から駒のような展開」とした記者に対し「もしかしたら金の駒がでるかもしれませんよ」と語ったものです。

繭の糸の長さは一体何メートルあるのか！？

繭1個から取れる糸の長さを皆さんはご存知でしょうか？ 蚕の品種にもよりますが、平均で1.3~1.5kmといわれています。「たった1個の繭から1kmを超えるような糸が本当に取れるのか？」誰もが抱くその疑問を解決すべく、実際に「繭の糸の長さを測る」実験をしてみました！
※弥栄地区まちづくり協議会の佐々木春枝さん、弥栄市民センターのご協力をいただきました。

①繭を茹でる

繭が乾燥したままでは糸が取れにくいので、糸口を探すために繭を茹でます。中に蚕がいるせいか、茹でている時は独特の匂いが...



糸口発見！
しっかりと
掴みます。



②慎重に糸を巻いていく

繭が乾燥しないうちに糸を箱に巻いていきます...が、予想以上に糸が細く、すぐに切れてしまうため、力加減と集中力が試される作業となります。



◀糸があまりにも細いため3個の繭を撚りながら巻いていきます。これを繰糸(そうし/くりいと)といいます。



◀1本の糸の細さはなんと0.02mmだそうです！写真に糸が写っているのが皆さんは見えますか？

③シルク100%の糸

悪戦苦闘しながらも約3時間で糸を巻き取ることができました。繰糸機が普及する前はこれを手作業で行っていたとは...昔の人の技術のすごさを感じます。



◀巻き取った糸は光沢のあるシルクの輝きを放っています。

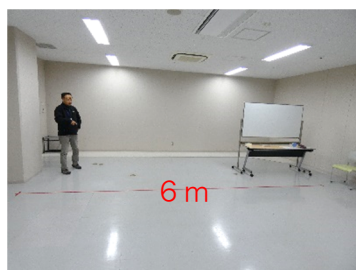


◀茹でた繭の中から出てきた蚕の蛹。昔は貴重なタンパク源として重宝されていたとか。

④いざ！計測！

春枝さんが長い時間を掛けて巻いてくれた糸をついに計測！「どうしたら正確に糸を計測できるか？」検討を重ね、下記の方法で計測することに。高鳴る気持ちを抑え、いざチャレンジ！

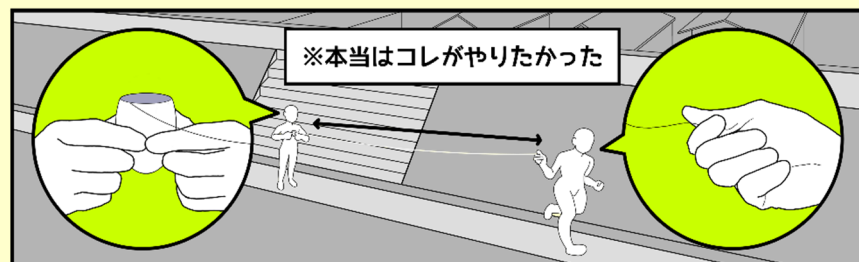
1 6mの長さを測り、ここを往復した回数で糸の長さを算出することに。



◀気合だけは十分のスタッフ。いざ計測開始です！

※ここだけの話...

磐井川の河川敷で計測をしよう考えていた私たち（下記イメージ図参照）。しかし、糸が想像以上に細かったため、長距離延ばすのは無理と判断...



※本当はコレがやりたかった

2 糸が細すぎるため、糸を見失うスタッフ。なかなか計測が進みません...



掴んでもすぐに切れてしまう糸。とても繊細なことを体感！

3 糸が途中で切れてしまうため、計測は想像以上に難航。そして、結果はまさかの...



残念な結果となりましたが、糸の繊細さと美しさを知ることができ、貴重な体験となりました。糸の長さは平均値の1.5km程度あったと信じましょう！

センターの自由研究

ミッション
39

仕事の流儀
No.1

「養蚕」後編

前号に続きお届けする「養蚕」の世界。今回は、近年注目されている「シルクの先端技術」についてご紹介します。また、密着取材をさせていただいた養蚕農家・金田清さんから貴重な繭を頂戴し、ある実験にも挑戦しました！
今月もみなさんを「知られざる養蚕の世界」へお連れします。

※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。

蚕が秘めたる可能性

現在、生糸や絹織物の主な生産国は中国・インド・タイといった国々で、日本の養蚕業・製糸業は極めて厳しい状況となっています。平成17年には生糸や絹織物の輸入が完全に自由化され、安い輸入品との競争がさらに激しくなりました。

農林水産省は国産の生糸を用いて、差別化、ブランド化した絹製品や国産絹織物の利用を消費者にPRし、蚕糸業の振興に取り組んでいます。さらに近年では、絹の主成分となっているフィブロインとセリシンという純度の高いタンパク質に着目し、医療から日常生活まで、私たちの生活に関わる製品を研究開発しています。そこで現在研究開発中の知られざる「蚕産業」厳選3つをご紹介します！

1 医療用素材

絹糸は生体に良く馴染み、無害であるため、昔から手術用縫合糸の材料として用いられてきました。その生体適合性を活かして、平面やチューブ状に加工した絹を、「医療用ガーゼ」や「人工血管」として利用する研究が進められています。

2 化粧品素材

絹の主成分となっているセリシンには、保湿・美肌効果・老化を防ぐ抗酸化作用などがあり、美容業界では注目の成分といわれています。そのセリシンを繭糸に含有率98%以上の状態で産生する蚕の品種を「セリシンホープ」といい、この蚕を利用した化粧品素材の開発が進められ、実用化されています。

3 創傷保護材

フィブロインやセリシンを加工することで、湿潤状態で強度に優れた絹タンパク質のフィルムを作ることができ、どちらも人体に有害な物質を使用せずに作製することができ、柔軟性や透明性、含水性に優れていることから、床ずれや火傷などの創傷保護材としての応用が期待されています。

その他にも遺伝子組み換え蚕の活用により、蛍光色を発する新しいシルク素材や病院の診断に用いられる診断キットなどの開発も行われています。新たな可能性の広がりを見せる蚕。研究者だけでなく、企業なども注目し始め、「蚕産業」は再び盛り上がりを見せ始めています！

養蚕農家のみなさん

一関・平泉地方で現在も養蚕業を続けている養蚕農家は最盛期に比べるとはるかに少ない8戸(全国では293戸)。仲間がどんどん減る中でも養蚕業を絶やさず守り続けてきた8戸のうち、今回の取材でお会いできた6名の方をご紹介します！



密着取材させていただいた
金田清さん (弥栄)

伊藤博夫さん (孤禅寺)

佐藤盛さん (大原)

千葉俊作さん (長島)

松平勝男さん (弥栄)

伊藤源一さん (日形)

ご協力ありがとうございました！